

推しの果物農家さん

京都聖母学院小学校 五年 八上 将

ぼくは果物が大好きだ。ほぼ一年中なにかしらの果物を食べている。甘くて美味しいみかんを食べることができるのは冬に限られるから、この時期はいつでも好きな時に食べられるように箱買いしたみかんを玄関の涼しいところに置いてある。

ぼくの住む地域は道路沿いに「農業王国〇〇」という看板を見ることができくらくらいに本当に農業がさかんな地域だ。近所にもいくつもの農産物直売所がある。果物を加工したカラフルなジャムやゼリーなどの商品も豊富でいつ来ても楽しい。商品の値札と一緒に生産者さんの顔写真つきのメッセージやイラスト入りのレシピを読むと勝手に親近感がわいてくる。だから、高齢化が進み、農業で働く人自体の数が減ってきているというのは本当に残念な事実だ。果物は無いと生きていけないという事ではないけれど、ぼくにとっては毎日を豊かにしてくれる存在だ。

ここ数年、ぼくの家では毎年冬になるとお気に入りの農家さんからみかんを箱で注文する。その箱の中には、美味しいみかんと一緒に手書き風のメッセージが入っている。生産者さんがどんな気持ちで仕事に取り組んでいるのかという工夫や努力がよくわかり、また親近感がわいて友達になったかのような気すらしてくる。

「推し活」というのが流行っているそうだが、多くの人が「推しの果物農家さん」というのを持ってみるのもいいかもしれない。私たち消費者の興味関心が高まれば日本の農業も活気づく。そうなれば、農家さんたちも「よし！もったいいものを作るぞ！」と励みになるはずだ。ぼくは、これからも日本の果物を食べて日本の農業自体を応援できたらいいなと思う。